



子どもの森づくり通信

(発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

JP子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2017年1月新年号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもちました方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



また、新しい年が始まりました。今年もよろしくお願い申し上げます。
秋田の森林インストラクター小沼さんから、雪の中の“どんぐり”の苗木の写真が届きましたのでご紹介します。苗木たちも、じっと、春を待っているのでしょう。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動 10年目を迎えて
2. JP子どもの森づくり運動 地域での活動レポート
3. 事務局からのお知らせ
 - 新・どんぐり博士の育苗講座 (2017年1月号)

■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
- ・特別協賛：日本郵政グループ
- ・後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟

(公社) 大谷保育協会

(公社) 国土緑化推進機構

NPO法人C・C・C富良野自然塾

(一社) 日本森林インストラクター協会

NPO法人自然体験活動推進協議会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(一社) 日本オート・キャンプ協会

(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

保育環境研究所ギビングツリー



1. JP子どもの森づくり運動 10年目を迎えて～活動のふりかえり（その1）：活動の趣旨・目的～

皆さんと共に活動してまいりましたJP子どもの森づくり運動が、今年、活動10年目を迎えます。

そんな節目の年の活動が始まる春の活動を控え、子森通信では、今月号より3号に渡って、これまでの活動のふり返りを行いたいと思います。今月号ではまず、JP子どもの森づくり運動の活動趣旨、目的について考えます。

○2008年、JP子どもの森づく運動は、以下の活動趣旨、目的をもって、日本郵政グループの皆さんとの協働体制の中で活動をスタートしました。

1. 樹を植えて、子どもの心を育むこと。

圧倒的な都市化とデジタル環境に取り囲まれ、決定的にリアルな体験が不足している現代の幼児（少）期子どもたちに、五感に訴求する本物の自然と環境の体験を提供し、もって子ども本来の“生きる力”と健全な環境意識を育ててくれます。

2. 木や森の大切さを感じてもらうこと。

そんな自然と環境の体験を子どもたちに届けるために、幼児（少）期の子どもたちが、一日の多くの時間を過ごす保育園、幼稚園、こども園を活動の拠点とし、それらの保育活動において親和性のある“どんぐり”の森づくり活動をプログラムとしました。子どもたちは、“どんぐり”を拾う、育てる、植える、という継続的な活動を通じて、森や木の大切さを体感し、さらに命の大切さを感じてくれます。

○2011年、「東日本大震災」を経て、それまでの活動に「東北復興グリーンウェイブ」という新しいミッションが積み上げられました。

3. “どんぐり”の絆でつながり、共に生きる心を育むこと。

被災地の緑の復興活動を通じて、被災地の子どもたちと、全国の子どもたちが、“どんぐり”の絆でつながり、環境の心の基盤となる『共に生きる心』を育ててくれます。さらに、子どもたちはグリーンウェイブを通じて、世界の子どもたちと環境の心でつながります。

そんな活動趣旨について、幼児教育の現場からのメッセージをお願いしました。福井県「大野幼稚園」の園長先生であり、真宗大谷派「最勝寺」のご住職でもある藤 兼量先生から、教育者であると共に宗教者としてのお立場からお送りいただいた特別寄稿です。藤先生には、子森ネットの理事を務めていただいております。

【寄稿】～JP子どもの森づくり運動9年目をふり返って～ 福井県「大野幼稚園」園長 子森ネット理事 藤 兼量

NPO法人子どもの森づくり運動推進ネットワーク（子森ネット）の活動に参加して、10年目を迎えることになりました。NPOの発足時から理事として運営に参画し、数多くの先生方や関係機関の方々との出逢いをいただいております。その中で多くの大切なことを学ばせていただいた貴重な時間であったことを今更ながら思わずにはおれません。

そもそも1幼稚園長として自園の子どもたち「一人ひとりが健やかに育ち、自らの人生を獲得して生きて欲しい」という願いの基で展開してきた『幼児教育の実践』の中で、『森づくり運動』という視点が私には全く無かったことでした。それが今から20年程前に、偶然出遇った1枚の色紙のことはによって「自然」ということを考える契機になったことです。



その色紙を書いた方は前園長が学生時代から師事していた高名な仏教学者で『安田理深』という方です。私も安田先生の講義は何度か聞く機会を頂いて来ましたが、難解な講義だったという印象しか無く、その内容は殆ど記憶にありませんでした。ところが或る日その色紙の言葉が、強烈に響いてきたのです。「弥陀佛八、自然ノ用ヲ知ラセン料ナリ（未燈鈔）」この言葉は親鸞聖人の言葉ですが『私を取り巻く無数の環境（自然環境のみでは無く）は、言語や人間関係、政治の仕組みや文化や経済や科学技術も含め、私の思惑を超えて「自然の作用（なるようになる・なるようにしかならないこと）」を私に知らせようとする材料です。』ということだと受け止めております。

人間の小さい知恵によって環境を利用し、支配出来るような錯覚に捕らわれて、その結果環境破壊に繋がってしまうという愚かしさを私達人類は持っているのだと思います。あらゆる環境を通して謙虚に自然の作用を学ぶことが、本当の意味で健やかで豊かな人生を獲得出来ることに繋がるのではないかと考えるようになったのです。しかし、具体的な保育の実践としてどのように取り組めば良いのか自問自答を繰り返していました。そんな時期に清水英二さん（現NPO子森ネット代表）と出会い、幼少期に於ける自然体験の重要性について熱いお話がありました。『富良野自然塾』さんの取り組みもお聞かせ頂き、幼少期の自然体験学習プログラムの手掛かりとして“どんぐり”の苗づくりを始めてみることにしました。



すでにその時点で私はケヤキの実生（ミショウ）を採取し、植木鉢を使っての育苗を試みていましたので“どんぐり”の育苗もスムーズに取り組むことができました。とは言うものの「なるようにしかならない自然の作用」の前では65%程度の発芽率。さらに育苗中に枯れてしまうものもあり、最終的に植樹出来るものは40%程度になってしまいます。園の職員とも相談しながら在園児・保護者と共にフィールドワークを始めよう。大切な視点は「思い通り上手く行くことではなく、失敗の経験すること」「残念な気持ちを共有すること」「自然の方が人間より偉いのだ」などを話し合いながらプログラムの試案を作りました。

森林インストラクターの方に来園して頂き、保護者・職員を対象に事前のワークショップも開催いたしました。具体的なフィールドワークの要点と安全確保の為に注意点が主な内容ですが、その中で人工林と自然林の違いや森林に於ける食物連鎖など、興味深い話を聞かせていただきました。このワークショップのおかげで保護者も職員も興味を持って主体的な取り組みが生まれ、この9年間を支えてきたのだと思います。



このようにして自然体験学習プログラムを始めましたが、子どもたちとの関わりの中で様々な場面に出会い、彼らの柔軟性や意欲やデリカシーにはいつも驚かされます。5歳児のAくんは、「こんなこと」に悩み、何とか乗り越えようと工夫して、挫折し、別の方法を考えて挑戦し、また悩みながら漸く、糸口を見つけます。その隣でBちゃんは、そっと見守り、時々遊びに誘いながら、自分に何が出来るのか考えています。

生きることの基本がここに在るように思うのです。子どもたちはそれぞれその生い立ちや家庭環境も発達も発育も異なります。ですから「こんなこと」の内容も、工夫の方法も多様性に満ちています。そのような一人ひとりが『自然の作用（なるようになる・なるようにしかならないこと）』と出遇い、その中で自分の人生に向かって勇気を持って生きて行く。自分だけが生きて行くのではなく、多様性をふまえて生きて行く。多様性を知ることは傷みを抱えることに他ならないことだと思います。

『生物多様性』という言葉が有りますが、人間に置き換えれば『個性』ということかも知れません。『個性』と『個性的』は異なります。『個性』は人間が意識的に作り出すものではなく、自立しようとする『個』の中から『傷みを抱え込む』姿が『自然の作用』によって滲み出るものだと思うのです。

2. JP子どもの森づくり運動 地域での活動レポート（活動の詳細は、ホームページにてご紹介しております。）

●岐阜県「認定こども園 浄心こどもの城」植樹祭（地元の“どんぐり”を植える会）レポート

- ・日時：2016年6月19日（日） ・会場：岐阜県白鳥町「油坂桜パーク」 ・参加者：ひまわり組親子23組
- ・インストラクター：村上森林インストラクター 中村（子森ネット）



●新潟県「認定こども園 つくし幼稚園」地元の“どんぐり”を拾う会レポート

- ・日時：2016年10月5日（水） ・場所：白山運動公園 ・参加者：年長児32人
- *いもほり遠足を兼ねたのどんぐり拾いで秋を楽しんできました。By 堀先生



3. 事務局からのお知らせ

1) JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2017」広島大会 参加者募集のお知らせ

JP子どもの森づくり運動の参加園が、年に一度全国から集い、交流を深める「全国集会&研修会2017」が、下記の予定で開催されます。2017年の開催地は広島市です。今回は、地元広島の参加園有志により実行委員会が結成され、皆さんをお迎えする準備に取り組んでいただいています。是非、ご参加下さい。申し込みの締切日が迫っておりますのでご注意願います。

<募集要項>

- ・テーマ：～川のみち広島から子どもの森を考える～
- ・主催：JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2017」広島実行委員会
- ・共催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（子森ネット）
- ・特別協賛：日本郵政グループ
- ・日程：2017年2月14日（火）、15日（水）
- ・会場：「BIGFRONTひろしま」（広島駅南口駅前）
- ・講師：広島大学大学院教授 中越信和氏（株）タフ・ジャパン 代表 鎌田修広氏、他
- ・参加費：①15,000円（研修費、宿泊費、保険料、懇親会費含む）
② 7,000円（日帰り参加費、懇親会費、保険料含む）
③ 1,000円（日帰り参加費、保険料含む）
- ・参加申し込み：別紙申し込み用紙にてお申込み下さい。（＊ホームページからもお申し込みいただけます。）
- ・申し込み締め切り日：2017年2月4日（土）



防災講座風景

2) ユーチューブチャンネル「子森チャンネル」のコンテンツが更新されました。

- ・新コンテンツ：「東北復興グリーンウェイブ」福島県での活動紹介
- ＊視聴方法：①「子森チャンネル」での検索 ②ホームページ⇒子森チャンネル&通信 ⇒子森チャンネル

●新・どんぐり博士の育苗講座（2017年1月号）～冬の冷え込み対策～

穏やかなお正月から一転、1月中旬以降は強い寒波に覆われ、厳しい寒さと大雪となりました。極端な気温と降雪には今後もお気をつけください。そして、この寒さに苗やどんぐりは大丈夫か、気に成りますよね。どんぐり博士：河内和男（「子森ネット」森林インストラクター）



冬越しの準備をした苗木は、11月号で説明したとおり、冬芽を作って寒さに耐えます。そのため、寒さの対策はそれほど気にしなくても大丈夫です。しかし、条件の悪い場所にわざわざ置か無くともよいので、冬場の冷え込みを避けるのに適した条件を上げてみます。

①日当たりの良い場所：太陽の光が当たる場所に置くと、朝冷え込んでも、日中は苗や土の温度が上がります。たとえ気温が氷点下でも太陽光が当たれば凍り付くことはありません。曇っていて弱い光でも、凍えたものを溶かします。反対に建物の北側などは、凍り付いたままとなることがあります。避けてください。

②冬の季節風が当たらない場所：氷点下の気温の下で強い風が吹き付けると、風の当たる面は凍結します。冬の季節風が吹き付ける方向に建物や塀がある状況にして、風が直接当たらないようにしましょう。

③頭上方向の空の広がり狭い場所：冬の晴れた朝の強い冷え込みは、放射冷却によって起こります。放射冷却とは、地球の熱が赤外線となって宇宙に出ていく現象です。頭上の空が広いほど冷却が進みます。ですから建物沿いや軒下に置くことで冷却の元になる空を狭めることができます。

以上をまとめると、建物の南側で、建物のそばの良く日の当たる場所が、冬の間、苗やどんぐりのプランターを置くのに適した場所と言えます。

**JP 子どもの森づくり運動「全国集会&研修会 2017」広島大会
参加申し込み書**

申し込み用紙内必要事項をご記入の上、事務局迄、FAXにてお申し込み下さい。

1. 締切日:2017年2月4日を締切日とさせていただきます。

2. 参加費

参加番号	参加内容	料金
①	2日間の研修、宿泊費、懇親会参加	15,000円
②	14日のみ研修会、懇親会参加	7,000円
③-A	14日研修会のみの日帰り参加	1,000円
③-B	15日研修会のみ参加	1,000円

3. 申し込み用紙には、参加内容別に、参加番号記入欄へ ①、②、③-A、③-B、いずれかの番号をご記入下さい。

4. 保険手続きの事情で、性別、生年月日についても記載ください。

5. お支払い方法:請求書を発行させていただきますので、開催前のお振込みをお願いします。

6. お預かりした個人情報については、情報管理を徹底し本研修会運営以外には使用しません。

<参加申し込み用紙>

(ふりがな) ・代表者名				参加 番号	
・住所	〒				
・所属先名					
・連絡先	・Tel:	・fax:	・Mail:		
・性別	・男 ・女	・生年月日(西暦)	年	月	日
	同行参加者名	参加番号	性別	生年月日	
1			・男 ・女	年	月 日
2			・男 ・女	年	月 日
3			・男 ・女	年	月 日

●お問合せ、参加お申込み先:NPO 法人子どもの森づくり推進ネットワーク

tel:03-5755-3213 / fax:03-5755-3081 /mailto:info@kodomonono-mori.net